



学校だより

調布市立調和小学校
校長 井上 潔
令和元年5月7日

HP: <http://www.chofu-schools.jp/chowa-sho>

Mail: chowa-sho@chofu-schools.jp

校章・校歌に込められた思い

校長 井上 潔

「平成」から「令和」の時代に移りました。「令和」の意味として、「人々が美しく心を寄せ合う中で、新しい文化、新しい時代を切り開いていく」という思いが込められているとのこと。私もこれからの時代が、世界や日本の人々が美しく心を寄せ合う時代になってほしいと願っています。

さて、本校の校章は、市島 博司先生により制定していただきました。「各学年を代表する子供たち（男児・女児）が、お互い仲良く手を取り合って、新しい小学校・調和小学校の「調」の文字を輪（和）の中に入れて持っているところをデザイン化した」そうです（学校だよりの左側のマークが校章）。今年度は、調和小学校が開校20周年を祝って、いろいろな行事が予定されています。その一つとして、校章を作ってください、日頃から、「墨アート」でもお世話になっている市島先生が、20周年のロゴマーク5つの案を考えてくださいました。その中で、20周年実行委員会が3つに絞り、その3つの中から児童の投票により、開校20周年のロゴマークが決まりました（下図参照…1番票数の多い左側が20周年のロゴマークに決定）。1番の理由として、児童の意見からは、「どれも迷ってしまうくらいいいマークでしたが、青と緑の線がすてきでした」「青と緑の線が過去、未来を表している」や「青や緑の線が木々や野川の自然を表していて、いつまでも自然が続くといい」等、たくさんの意見がありました。

調和小学校の校歌は、作詞者：山花 郁子先生（児童文学者、当時の調布市教育委員会委員長職務代理者）、作曲者：安藤 由布樹先生（作曲家）によって制定していただきました。音楽室や教室から「明るい野川のせせらぎに みんなの声が はずんでる」と元気な歌声が聞こえてきました。ニコニコと大きな口を開けて一年生が校歌の練習をしていました。調和小学校のみんなが大好きな校歌です。私も素晴らしい歌詞と曲が大好きです。歌詞の中の「調和の心」について、私なりにいろいろ考えました。「一人一人の児童が、友達との絆を上手に培っていき、お互いが切磋琢磨しながら伸びていくことを喜び合える」姿を思い浮かべました。きっと、一人一人が違った「調和の心」のイメージがあると思います。そのことを考え、意見交換することも大切だと思います。

「平成11年10月16日に校歌発表会が開かれました。地域・保護者・教職員それぞれの代表による校歌制定委員会（委員長 奥平 恭子健全育成会長）を組織し、児童の願いを汲み取りながら手がけてきた待望の校歌です。喜びの中で、発表されました。」と学校の歴史が書いてある「学校沿革史」の中に記されていました。

開校当時、関係者の皆さんが抱いた調和小学校への様々な思いと期待を大切に、これからも互いを認め合い、大きな夢に向かって我慢強く努力を続けられる子供たちに育てていきたいと「令和」の時代に移るにあたって、心を新たにしました。

490票



2

108票



3

51票



1